香川県埋蔵文化財調査年報

平成16年度

2006. 1

香川県教育委員会

- 1. 本書は、香川県内における平成16年度の埋蔵文化財保護行政及び発掘調査の概要集である。
- 2. 発掘調査の概要を掲載した遺跡の位置は各遺跡ごとに示し、文化財保護法にもとづく届出等については一覧表に示した。
- 3. 遺跡の配列は、県教委主体の調査、市町教委主体の調査を含め、それぞれ原則として西から東の地域への順とした。
- 4. 各遺跡の位置については、国土地理院発行の25,000分の1地形図を使用した。
- 5. 各遺跡の編集は執筆者が行い、全体編集を文化行政課が行った。

目 次

Ι	平成	16年度埋蔵文化財保護行政の動向	•••••		··· 1
Π	平成	16年度文化財保護法にもとづく届出等一	覧及び	『発掘調査の概要	3
	1. 文	化財保護法にもとづく届出等			
	(1)	遺跡発見の届出・通知(第57条の5、6)		3
	(2)	埋蔵文化財発掘の届出・通知(第57条	2,3)	<u></u>	4
	(3)	埋蔵文化財発掘調査の報告(第58条の	2)		6
	(4)	開発事業等に伴う埋蔵文化財試掘調査		•••••	8
	(5)	埋蔵文化財現地踏査・立会調査の状況	•••••		10
	2. 発	掘調査の概要			
	(1)	高塚14		讃岐国分寺跡	
	(2)	タヌキ山古墳15	(22)	堂山城跡	38
	(3)	宗吉瓦窯跡16	(21)	国分中西遺跡	39
	(4)	旧練兵場遺跡18	(23)	西末則遺跡	
	(5)	菊塚古墳19	(24)	本郷遺跡	…41
	(6)	四国学院大学構內遺跡20	(25)	栗林公園	
	(7)	善通寺旧境内21	(26)	日暮松林遺跡	
	(8)	善通寺陣所跡22	(27)	日暮松林遺跡	…44
	(9)	樽池西手山頂墳 3号23	(28)	松林遺跡	
	$(10)^{-1}$	生野原遺跡24	(29)	多肥宮尻遺跡	46
	(11)	奥白方中落遺跡25	(30)	高松城跡(内町地区)	…47
	(12)	奥白方南原遺跡26	(31)	史跡高松城跡(鉄門)	48
	(13)	中東遺跡27	(32)	史跡天然記念物屋島(屋島城跡)	40
	(14)	西長尾城跡28	(33)	白山4、5、6遺跡	50
	(15)	大堀城跡31	(35)	鵜の部山古墳	···51
	$(16)_{-1}$	中寺廃寺32	(34)	大串石切場跡	52
	(17)	東坂元三の池遺跡33	(36)	大井西遺跡	53
	(17)	ナカンダ浜遺跡34	(37)	引田城跡	54
	(18)	ナカンダ浜遺跡35	(38)	引田城跡	55
	(19)	史跡城山36			
III	平成	16年度香川県埋蔵文化財センターの発掘	調査状	 尺況	
		じめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			56
		事業に伴う発掘調査事業			56
		事業に伴う発掘調査事業			

I 平成16年度埋蔵文化財保護行政の動向

1. はじめに

香川県教育委員会では、埋蔵文化財の保護及び国・県等の開発事業との調整・発掘調査等を 行っているが、近年の景気動向等により、開発事業の規模や量が変化し、開発事業との調整が より重要となっている。また、市町教育委員会では、平成14年度以降の市町合併により組織再 編があり、埋蔵文化財保護体制は大きく影響を受けている。

このような状況のなか、埋蔵文化財行政の対する県民の理解と協力を得るため、発掘調査の 客観的な基準の作成や現地説明会などの広報活動を行うとともに、重要な遺跡については、史 跡指定等を推進している。

2. 埋蔵文化財保護体制の整備

香川県の体制は、県教育委員会の埋蔵文化財担当職員4名(専門職員4名)と、香川県埋蔵文化財センター(以下、埋蔵文化財センター)の調査担当職員名20名(専門職員16名、教員5名)をあわせた合計24名である。なお、埋蔵文化財センターは、平成15年度末をもって財団法人を解散し、平成16年度は公立の調査組織として出発した。

市町の埋蔵文化財専門職員は、6市7町に配置されているが、これに東讃2市の埋蔵文化財調査を担当する大川地区広域行政組合を含めても、市町の埋蔵文化財専門職員の配置率は41%と低いのが現状である。平成14年度はさぬき市、平成15年度は東かがわ市、平成16年度には新丸亀市が合併により誕生し、今後も市町合併が継続的に予定されている。これにより、市町の専門職員の配置率は上昇するものと考えられるが、担当者の増員が無いうえ、担当区域が広域化するなど、実質的には担当者の負担増となる可能性もあるので、適切な職員配置が求められる。

埋蔵文化財保護の基礎となる遺跡地図及び遺跡台帳等については、埋蔵文化財包蔵地の発見等に伴う事務手続きについて県教育委員会から市町教育委員会へ通知し、その整備の充実化を図っている。

香川県	24名	観音寺市	1名	多度津町	1名
高松市	5名	さぬき市	1名	高瀬町	1名
丸亀市	2名	三木町	1名	三野町	1名
坂出市	1名	国分寺町	1名	豊中町	1名
善通寺市	3名	琴南町	1名	大川広域	2名
				合計	46名

県内の埋蔵文化財専門職員の配置状況

3. 開発事業の動向と開発事業との調整

国、県、公団が事業主となる大規模開発事業は、平成12年8月に四国横断自動車道建設が終了し、平成14年3月にサンポート高松総合整備が終了するなど、減少傾向にあり、小規模事業の増加が認められる。

県教育委員会では、国・県等の開発事業と埋蔵文化財保護の調整のため、毎年、国・県等の

事業者に対して向こう3年間の事業計画を照会し、その回答をもとに、試掘・確認調査等を国庫補助事業等で実施している。県教育委員会が平成16年度に実施した試掘調査は15件である。調整の結果、現状保存できない遺跡については、県教育委員会が平成12年4月1日に作成した「開発事業等に伴う埋蔵文化財(遺跡)の取扱い要綱」により、その取扱いを決定し、埋蔵文化財保護行政の一層の効率化を図っている。そのうち、発掘調査と判断したものは、埋蔵文化財センターが調査を実施した。埋蔵文化財センターでは、平成16年度、10遺跡で35,050㎡の発掘調査を実施するとともに、6遺跡の整理作業と13遺跡の報告書印刷を行った。

大規模開発事業の減少に伴い、埋蔵文化財センターの事業規模も、平成14年度は6班体制、調査面積約52,100㎡、平成15年度は6班体制、調査面積34,649㎡、平成16年度は6班体制、35,050㎡と縮小傾向にある。平成13年度から国立善通寺病院改修に伴う調査、県農業試験場移転に伴う調査など、少数の大規模調査事業があったが、平成16年度でほぼ終了となった。また、平成16年度から埋蔵文化財センターでは、県道の小規模開発事業に対応した調査体制をつくるなど、増加する小規模事業への対応を行っている。

市町、個人等が事業主となる農道等の道路、個人住宅、店舗の建設、土砂採取等の小規模事業に伴い、市町教育委員会では、国庫補助事業で開発に伴う事前の試掘・確認調査を実施しており、県内全体では28件の調査を実施した。また、開発事業に伴う本発掘調査は、6件である。今後とも、小規模開発事業と埋蔵文化財保護の調整を図るため、市町教育委員会では、関係機関、関係者等との連絡をさらに密にし、人員を含めた適切な体制を確立する必要がある。

また、発掘調査経費については、中国四国ブロック文化・文化財行政主管課長会議で作成した「開発事業に伴う埋蔵文化財の本発掘調査に関する積算基準」に準拠して、香川県の積算基準を平成17年3月に作成して適正化を図っている。

4. 史跡指定と保存・整備

高松市の史跡高松城跡鉄門保存修理、丸亀市の史跡丸亀城跡土塀の保存修理、直島町の史跡喜兵衛島製塩遺跡の保存修理、三野町の史跡宗吉瓦窯跡の保存整備を国庫補助事業で実施した。高松市の史跡天然記念物屋島では、水門遺構及び外郭線の調査を実施した。また、特別史跡讃岐国分寺跡では、第2次整備に向けて指定範囲内の公有地化を進めるとともに、史跡讃岐国分尼寺跡の買上げ事業も実施した。綾歌町の快天山古墳は、平成16年9月30日に史跡に指定された。次年度以降、公有地化及び整備事業を順次実施していく予定である。また、善通寺市の菊塚古墳は平成12年度からの発掘調査でその内容が明らかになったことから、史跡有岡古墳群への追加指定に向けて準備している。

5. 広報活動の推進

埋蔵文化財センターでは、発掘調査の成果を現地説明会や埋蔵文化財センター展示室で紹介している。また四国4県の埋蔵文化財センターが協力して、巡回展「発掘へんろ ―遺跡でめぐる伊豫・土佐・讃岐・阿波―」を実施した。地域ブロック単位で実施するのは、全国でも初の試みとして注目を集めた。学校教育等との連携では、学校教育の教材として、出土品の貸出しを行うともに、県内の学校や資料館等に「土器づくり」「勾玉づくり」の出前授業を実施した。市町においても、発掘調査の現地説明会を実施するとともに、史跡を活用した「古墳まつり」「史跡まつり」などのイベントを実施し、遺跡の活用を行っている。また、三野町では史跡整備がすむ宗吉瓦窯跡をテーマにしたシンポジウムを開催した。

Ⅱ 平成16年度文化財保護法にもとづく届出等及び発掘調査の概要

1. 文化財保護法にもとづく届出等一覧

平成16年度の文化財保護法第57条、第57条の $2\cdot 3$ 、第57条 $5\cdot 6$ のにもとづく届出・通知件数は以下の通りである。

:	届出・通知件数
第57条	0
第57条の2・3	34
第57条の5・6	3

(1)遺跡発見の届出・通知(第57条の5・6)

`				- 2 - 2				
番号	位 置	原 因	発見者	発 見 日	遺跡の種類	遺跡の時代	指導内容	香 川 県 文章番号
1	三木町下高岡	土木工事中	三木町長 石原 収	平成16年9月2日	集落跡	弥生	発掘調査	16教文第 14875-1号
2	丸亀市田村町	土木工事中	善通寺土木 事務所長 北原義則	平成16年11月10 日~平成16年11 月19日	集落跡	奈良·平安	工事立会	16教文第 14875-2号
3	国分寺町国分	土木工事中	国分寺町長福井則史	平成16年12月20 日~平成17年1 月11日	その他の 墓	中世	工事立会	16教文第 14875-3号

(2)埋蔵文化財発掘の届出・通知(第57条の2・3)

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
1	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	集落跡	弥生	16教文第183-1号
2	庄八尺遺跡	多度津町庄	集落跡	中世	16教文第183 - 2号
3	讃岐国府跡	坂出市府中町	官衙跡	奈良·平安·中世	16教文第183-3号
4	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生	16教文第183-4号
5	平塚	三豊郡大野原町大野原	古墳	古墳	16教文第183-5号
6	旧練兵場遺跡	善通寺市仙遊町	集落跡	弥生	16教文第183-6号
7	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生·奈良	16教文第183-7号
8	飼野下遺跡	綾南町陶	集落跡	弥生·平安·中世	16教文第183-8号
9	奥白方南原遺跡	多度津町奥白方	集落跡	弥生·平安·中世	16教文第183-9号
10	引田城跡	東かがわ市引田町	城館跡	中世·近世	16教文第183-10号
11	池戸鍋渕遺跡	三木町池戸	包含地	弥生	16教文第183-11号
12	安造田東3号墳	満濃町羽間	古墳	古墳	16教文第183-12号
13	史跡丸亀城跡	丸亀市一番丁	城館跡	近世	16教文第183-13号
14	田村池遺跡	丸亀市田村町	包含地	弥生	16教文第183-14号
15	大堀城跡	満濃町吉野	城館跡	中世	16教文第183-15号
16	北代西遺跡	綾上町山田上	集落跡	縄文·弥生·古墳· 奈良·平安·中世	16教文第183-16号
17	川添浄水場遺跡	高松市東山崎町	集落跡	弥生	16教文第183-17号
18	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生	16教文第183-18号
19	生野原遺跡	善通寺市生野町	集落跡	古墳	16教文第183-19号
20	讃岐国府跡	坂出市府中町	官衙跡	奈良·平安·中世	16教文第183-20号
21	北条池北西底遺跡	 綾南町陶 	集落跡	平安・中世	16教文第183-21号
22	高松城跡	高松市内町	城館跡	近世	16教文第183-22号
23	沙弥ナカンダ浜遺跡	坂出市沙弥島	生産遺跡	縄文·弥生·古墳	16教文第183-23号
24	松原遺跡	東かがわ市松原	生産遺跡	弥生·古墳	16教文第183-24号
25	松原遺跡	東かがわ市松原	生産遺跡	弥生·古墳	16教文第183-25号
26	沙弥ナカンダ浜遺跡	坂出市沙弥島	生産遺跡	縄文·弥生·古墳	16教文第183-26号
27	沙弥ナカンダ浜遺跡	坂出市沙弥島	生産遺跡	縄文·弥生·古墳	16教文第183-27号
28	国分台遺跡	国分寺町国分	散布地	旧石器	16教文第183-28号
29	庄八尺遺跡	多度津町庄	集落跡	中世	16教文第183-29号

事業目的	事 業 主 体	事業面積 (㎡)	事業期間	指導内容
病棟建設	国立善通寺病院長 田村禎通	6,488	16.3~	発掘調査
道路建設	香川県善通寺土木事務所長 北原義則	109	16.4~	工事立会
住宅建設	川田浩	277	16.6.1~	工事立会
特別養護老人ホーム 建設	香川県済生会業務担当理事 小川裕道	1,500	16.9. 1~18.3.31	発掘調査
墳丘上石垣の積み替え 及び補強	大野原八幡神社宮司 柘植宗尚	36	16.4.15~16.7.20	工事立会
農業関連·電気設備埋設	四国農業研究官 野中瑞生	6	16.6. 1~16.7.31	工事立会
宅地造成	株式会社西日本住建代表取締役 生藤嘉之	230	16.8. 1~16.10.10	発掘調査
農業関連	香川県中讃土地改良事務所長 黒川義夫	3,420	16.7. 6~17.3. 2	慎重工事
道路建設	香川県善通寺土木事務所長	93	16.10~17.3	工事立会
公園造成	香川県知事 真鍋武紀	272	16.3.20~16.7.31	発掘調査·工事 立会厳重注意
水道管布設工事	香川県水道局長	1,725	16.9. 1~	工事立会
農業関連	満濃町土地改良区理事長 森照市	1,000	16.9. 1~17.3.31	慎重工事
遺跡整備	丸亀市長 新井哲二	1,100	16.9. 1~16.3.21	工事立会
堤体改修	香川農地防災事務所長 白木哲二	14,800	16.10.1~17.3.31	工事立会
道路建設	善通寺土木事務所長 北原義則	431	16.10.1~17.3.25	発掘調査
農道建設	中讃土地改良事務所長 黒川義夫	2,790	16.1. 6~16.6.23	厳重注意
汚泥脱水施設建設	高松市水道事業管理者 吉峰政登	256	16.12.1~17.10.31	工事立会
フィットネスクラブ 建設	株式会社象企画代表取締役 松本好隆	800	17.1.31~17.9.15	発掘調査
国道建設	国土交通省四国地方整備局 香川国道河川工事事務所長	2,317	17.4. 1~18.3.31	発掘調査
個人住宅建設	綾野俊夫	495	17.1. 2~17.3.24	発掘調査
堤体改修	中国四国農政局香川農地防災事業所 長 白木哲二	12,000	16.12~17.5	慎重工事
立体駐車場建設	高松丸亀町商店街A街区市街地再開 発組合理事長 古川新二	650	17.2. 1~17.6.30	発掘調査
公園造成	香川県知事 真鍋武紀	25	16.1. 4~	慎重工事
公園造成	香川県知事 真鍋武紀	109	17.2~17.5.31	工事立会・慎 重工事
公園造成	香川県知事 真鍋武紀	84	17.3~17.6	工事立会·慎 重工事
トイレ改修	坂出市長 松浦稔明	15	17.2. 2~17.3.25	慎重工事
公園造成	香川県知事 真鍋武紀	77	~17.3.31	工事立会·慎 重工事
訓練施設造成	陸上自衛隊善通寺駐屯地 第2混成団長 佐々木克徳	2,100	17.3.28~17.4.28	慎重工事
道路建設	香川県善通寺土木事務所長	5,598	未定	発掘調査

番号	遺跡の名称	遺跡の所在地	遺跡の種類	遺跡の時代	香川県文書番号
30	国分台遺跡	坂出市神谷町	散布地	旧石器	16教文第183-30号
31	田村遺跡	丸亀市田村町・中府町	集落跡	奈良·平安	16教文第183-31号
32	興隆寺跡	豊中町下高野	社寺跡	中世	16教文第183-32号
33	西村遺跡	綾南町陶	集落跡	奈良·平安	16教文第183-33号
34	後藤城跡	綾上町山田上	城館跡	中世	16教文第183-34号

(3) 埋蔵文化財発掘調査の報告(第58の2) ※市町教育委員会が調査主体のものに限る

番号	名 称	所 在 地	種 類	時 代	原 因	原因者
1	松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生	宅地造成工事	株式会社ユーリック 興産
2	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生·古墳	老人ホーム建設	社会福祉法人恩賜財 団済生会支部香川済 生会
3	大井西遺跡	さぬき市大川町	集落跡・ 古墳	弥生·古墳	土砂採取	株式会社 高木産業
4	善通寺陣所跡	善通寺市善通寺町	城館跡	中世·近世	学術研究	善通寺市
5	多肥宮尻遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生·奈良	宅地造成工事	株式会社 西日本住建
6	中寺廃寺跡	琴南町造田	社寺跡	平安・中 世・近世	遺跡整備	琴南町
7	史跡天然記念物屋 島	高松市屋島東町	都城跡	古墳	学術研究	高松市
8	引田城跡	東かがわ市引田	城館跡	近世	学術研究	東かがわ市
9	菊塚古墳	善通寺市善通寺町	古墳	古墳	学術研究	善通寺市
10	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	集落跡	弥生	フィットネスク ラブ建設	株式会社 象企画
11	鵜の部山古墳	さぬき市津田町	古墳	古墳	遺跡整備	さぬき市
12	沙弥ナカンダ浜遺 跡	坂出市沙弥島北通 り	生産遺跡	縄文~古 墳	野外トイレ建設	坂出市
13	史跡 高松城跡	高松市玉藻町	城館跡	近世	遺跡整備	高松市
14	樽池西手山頂墳 3 号	善通寺市善通寺町	古墳	古墳	学術研究	善通寺市
15	高塚	観音寺市柞田町	古墳	古墳	農業関連	
16	高松城跡	高松市内町	城館跡	近世	立体駐車場建設	株式会社 三越高松 市店
17	興隆寺石塔群	三豊郡豊中町	中世	社寺跡	遺跡整備	豊中町

事業目的	事 業 主 体	事業面積 (㎡)	事業期間	指導内容
訓練施設造成	陸上自衛隊善通寺駐屯地 第2混成団長 佐々木克徳	325	17.3.28~17.4.28	慎重工事
道路建設	香川県善通寺土木事務所長	790	未定	発掘調査
遺跡整備	豊中町教育委員会教育長 中田清	4,000	17.3.30~17.3.31	慎重工事
農業関連	山本静夫	3,403	17.3.15~17.3.31	工事立会
災害復旧及び仮設道設 置	道房俊一	100	16.11.8~16.11.16	発掘調査

		•				
対 処	調査主体	面積	調査期間	担 当 者	費用負担	調査後の 措 置 等
事前調査	高松市	約800㎡	2004.4.1~ 2004.4.14	高松市教育委員会 大嶋和則	株式会社ユーリック興 産	工事実施
事前調査	高松市	約1,500㎡	2004.6.23~ 2004.8.31	高松市教育委員会 大嶋和則	社会福祉法人恩搖腸財団済生会支部香川済生	工事実施
事前調査	さぬき市	1850m²	2004.10.7~ 2004.6.4	大川地区広域行政 振興整備事務組合 阿河鋭二	株式会社 高木産業	工事実施
· • .	善通寺市	約20㎡	2004.7.1~ 2004.7.14	善通寺市教育委員 会 渡邉淳子	善通寺市	-
事前調査	高松市	約230㎡	2004.7.5~ 2004.7.23	高松市教育委員会 小川賢	株式会社 西日本住建	工事実施
_	琴南町	1,810m²	2004.8.9~ 2004.12.31	琴南町教育委員会 加納裕之	琴南町	. -
-	高松市	344 m²	2004.10.4~ 2005.2.28	高松市教育委員会 山元敏裕	高松市	-
-	東かがわ市	1,200 m²	2004.10.1~ 2005.1.31	大川地区広域行政 振興整備事務組合 阿河鋭二	東かがわ市	-
	善通寺市	約40㎡	2004.11.1~ 2004.11.30	善通寺市教育委員 会 渡邉淳子	善通寺市	-
事前調査	高松市	約800㎡	2004.12.1~ 2005.1.31	高松市教育委員会 小川賢	株式会社 社象企画	工事実施
<u>.</u>	さぬき市	337 m²	2004.9.27~ 2004.12.27	大川地区広域行政 振興整備事務組合 松田朝由	さぬき市	
事前調査	坂出市	4.5m²	2004.11.1~ 2004.12.20	坂出市教育委員会 今井和彦	坂出市	工事実施
-	高松市	約62㎡	2005.01.24~ 2005.03.31	高松市教育委員会 大嶋和則	高松市	
-	善通寺市	約100㎡	2005.02.07~ 2005.03.31	善通寺市教育委員 会 渡邉淳子	善通寺市	
事前調査	観音寺市	約7,684㎡	2005.02.07~ 2005.03.31	観音寺市教育委員 会 久保田昇三		工事実施
事前調査	高松市	約650㎡	2005.02.21~ 2005.05.15	高松市教育委員会 小川賢	株式会社 三越高松市店	工事実施 予定
-	豊中町	80m²	2005.03.01~ 2005.03.31	豊中町教育委員会 森裕行	豊中町	-
:						
				-7-		

(4) 開発事業に伴う埋蔵文化財試掘調査

番	L 41	1. 11		
番号	名 称	所 在 地	原 因	原 因 者
1	善通寺地区	善通寺市稲木町・中村町	国道11号(坂丸バイパス)建設事業	国土交通省
2	岡田地区	綾歌郡綾歌町	国道32号綾歌バイパス建設事業	国土交通省
3	飯山工区	綾歌郡飯山町 (丸亀市)	国道438号道路改修事業	香川県
4	花稲工区	三豊郡大野原町 三豊郡豊浜町	県道丸亀詫間豊浜線緊急地方道路整備 工事	香川県
5	多度津東工区	仲多度郡多度津町	県道丸亀詫間豊浜線道路改築事業	香川県
6	中府工区	丸亀市田村町・中府町	県道高松善通寺線道路改修工事	香川県
7	川島工区	高松市川島本町	県道西植田高松線道路改良工事	香川県
8	馬篠地区	東かがわ市馬篠 さぬき市津田町	県道津田引田線緊急地方道路整備事業	香川県
9	南の台地区	綾歌郡国分寺町	国分台演習場における掘削を伴う演習	自衛隊
10	石田高校	さぬき市寒川町	石田高校造園実習棟及び飼料庫新築事 業	香川県
11	白鳥松原園地	東かがわ市松原	瀬戸内海国立公園 白鳥松原園地	香川県
12	東讃南部2号地区	高松市東植田町	県営単独緊急農道建設事業	香川県
13	東讃南部3-1号地区	綾歌郡綾南町	県営単独緊急農道建設事業	香川県
14	三木北部地区	木田郡三木町	農村振興総合整備事業	香川県
15	桑山地区	三豊郡豊中町	県営単独緊急農道建設事業	香川県
16	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	特別養護老人ホーム	社会福祉法人恩賜財団済 生会支部香川済生会
17	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	宅地造成	株式会社 西日本住建
	高松城跡(内町)	高松市内町	立体駐車場建設	高松丸亀町商店街A街区 市街地再開発組合
	高松城跡(丸の内)	高松市丸の内	個人ビル建設	個人
	多肥上町地区	高松市多肥上町	小学校増築工事	高松市教育委員会
21	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	フィットネスクラブ新築工事	株式会社 象企画
22	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	共同住宅建設	個人
23	上林町地区	高松市上林町	遊戱施設建設	株式会社 ダイナム
24	三谷地区	高松市三谷町	無線基地局建設工事	株式会社 四電エンジニ アリング
	香西東町地区	高松市香西東町	都市計画道路建設	高松市
_	由良南原遺跡	高松市由良町	公園整備	高松市
	由良南原遺跡	高松市由良町	市道改良	高松市
	西ハゼ町地区	高松市西ハゼ町	導水管布設工事	高松市
	多肥下町地区	高松市多肥下町	防火水槽設置	高松市
	香西南町地区	高松市香西南町	防火水槽設置	高松市
31	日暮・松林遺跡	高松市多肥上町	農道補修	土地改良区
	高松城跡(西の丸)	高松市西の丸町	個人ビル建設	個人
	高松城跡(丸の内)	高松市丸の内	個人住宅建設	個人
34	三谷中原遺跡	高松市三谷町	遊戲施設建設	株式会社 ポジション
35	一ノ谷池	観音寺市中田井町字天神 岡858-1	地域用水環境整備事業	観音寺市一ノ谷池土地改良区
	高塚	観音寺市柞田町乙3156-1	土地改良事業(圃場整備)	観音寺市柞田土地改良区
37	白山地区		白山景観整備事業	三木町
38	沙弥ナカンダ浜遺跡	坂出市沙弥島北通り141-4ほか	公共事業	公共事業
39	沙弥ナカンダ浜遺跡	坂 出 市 沙 弥 島 北 通 り 141-4ほか	災害復旧	災害復旧
40	讃岐国府跡	坂出市府中町5134-8	個人住宅	個人住宅

調査主体	面積 (㎡)	調査期間	担	当	者	費用負担	調査の結果
県教委	231	16.7.5~7	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵地確認、記録保存予定
県教委	553	16.6.30~7.7 16.8.4 16.11.12·24	文化行政課	山下平	重	国・県	包蔵地確認されず
県教委	86	16.8.17 17.1.31~2.1	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵地確認、記録保存予定
県教委	149	16.12.20~24	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵地確認されず
県教委	365	16.9.6~13	文化行政課	松本和	彦	国・県	新規包蔵地は確認されず 無名の塚は保護措置終了
県教委		16.11.25	文化行政課	松本和		国・県	包蔵地確認、記録保存予定
県教委	156	17.1.24~26	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵地確認、記録保存予定
県教委	113	16.7.1~2	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵地確認されず
県教委	7	16.11.9~19	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵地状況確認
県教委	49	16.10.14	文化行政課	山下平	重	国・県	包蔵状況確認、記録保存 予定
県教委	17	17.2.16 • 24~25	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵状況確認、保護措置終了
県教委		16.10.12~15	文化行政課	松本和		国・県	包蔵状況確認、保護措置 終了
県教委		16.12.7~9	文化行政課	松本和		国・県	包蔵地確認されず
県教委	26	16.10.28~29	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵地確認されず
県教委	308	17.2.7~21	文化行政課	松本和	彦	国・県	包蔵状況及び包蔵地確認 記録保存予定
高松市教育委員会		16.6.7	高松市教育委		大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認、本調査実施
高松市教育委員会	192	16.6.29 · 30	高松市教育委	長員会_	小川賢	国・県・市	包蔵地確認、本調査実施
高松市教育委員会		16.7.7.20 • 21	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	包蔵地確認、本調査実施
高松市教育委員会		16.7.21	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会		16.7.29	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会		16.10.18	高松市教育委	5員会	川畑聰	国・県・市	包蔵地確認、本調査実施
高松市教育委員会	124	10.12.13	高松市教育委		大嶋和則	国・県・市	包蔵地確認、工事立会
高松市教育委員会	119	17.3.16	高松市教育委	5員会	川畑聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会		17.2.22~2.24	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	包蔵地確認、本調査実施
高松市教育委員会		16.9.27~9.30	高松市教育委				包蔵地確認されず
高松市教育委員会		16.5.31	高松市教育委		大嶋和則		包蔵地確認、工事立会
高松市教育委員会		16.6.28	高松市教育委		山元敏裕		包蔵地確認、工事立会
高松市教育委員会		16.8.27~9.7	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	
高松市教育委員会		17.2.4	高松市教育委		小川賢	市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会 高松市教育委員会		17.2.19~2.23 16.5.12	高松市教育 高松市教育		<u>小川賢</u> 大嶋和則	市国・県・市	包蔵地確認されず 包蔵地確認、工事立会
高松市教育委員会		17.7.13~7.19	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	包蔵地確認、工事立会
高松市教育委員会		16.11.9	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	包蔵地確認されず
高松市教育委員会		17.3.24	高松市教育委		川畑聰	国・県・市	包蔵地確認
観音寺市教育委員会		16.11.16~17.3.4	観音寺市教育 久保田昇三			市	包蔵地確認
観音寺市教育委員会	769	17.2.7~17.3.31	観音寺市教育 久保田昇三	育委員会		市	包蔵地登載抹消
三木町教育委員会	304 65	16.10.1~12.21	三木町教育委	5員会	石井健一	町	包蔵地確認
坂出市教育委員会	14.3	2004/11/16~ 2004/12/17	坂出市教育多		今井和彦	国・県・市	包蔵地の確認、工事立会
坂出市教育委員会	150	2001/12/11	坂出市教育委	委員会	今井和彦	国・県・市	包蔵地の確認
	10	$2004/10/23$ $2004/12/24 \sim$ $2004/12/28$	坂出市教育委	 5昌会	今井和彦	国・県・市	包蔵地確認されず

(5) 埋蔵文化財現地踏査・立会調査の概況

番号	位 置	原 因	事業主体	事業面積	調査内容
号)		, , , , <u>, , , , , , , , , , , , , , , </u>	7.水画顶	N.4-EVI 4 EI
1	高松市屋島東町	讃岐いやしの道整備事業に伴 う広域観光案内板設置	県観光振興課	0.98m²	立会調査
2	三豊郡高瀬町法事	県道詫間琴平線交通安全施設 設置工事	道路保全課	100m²	立会調査
3	 坂出市高屋町 	善通寺(高屋地区)小火器射 撃評価システム設置	広島防衛施設局	約90,000㎡	立会調査
4	仲多度郡多度津町 奥白方	県道多度津丸亀線道路改修工 事(奥白方工区)	道路建設課	23,800m²	立会調査
5	高松市木太町	都市計画道路事業福岡三谷線	都市計画課	32,000 m²	分布調査 立会調査
6	丸亀市本島	県道本島循環線(泊工区)道 路改修事業	道路建設課	1,400 m²	分布調査
7	さぬき市寒川町神 崎	高松法務局寒川出張所庁舎新 営工事	高松法務局	約1,146㎡	立会調査
8	仲多度郡琴平町	満濃川河川改修工事	河川砂防課	2,000 m²	立会調査
9	高松市岡本町ほか	県道円座香南線道路改築事業	道路建設課	148,400 m²	立会調査
10	高松市太田上町	高架橋架設工事	国土交通省	11,000 m²	立会調査
11	善通寺市稲木町· 中村町	国道11号道路改良工事	国土交通省	約20,000㎡	分布調査
12	仲多度郡多度津町 奥白方	多度津丸亀線道路改修工事 (奥白方工区)	道路建設課	23,800m²	分布調査
13	東かがわ市引田	瀬戸内海国立公園 城山園地工事	環境・水政策課 自然保護室	約3,000㎡	分布調査
14	東かがわ市馬篠 さぬき市津田町	県道津田引田線緊急地方道路 整備事業	道路建設課	8,800 m²	立会調査
15	善通寺市善通寺町	車両整備工場建替工事、弾薬 庫護衛所建替工事	防衛施設庁広島防 衛施設局	4,950m²	立会調査
16	綾歌郡飯山町 (丸亀市飯山町)	国道438号 道路改修事業 (飯山工区)	道路建設課	32,400 m²	分布調査立会調査
17	善通寺市仙遊町	電気設備埋設等	独立行政法人近畿 中国四国農業研究 センター	6.15 m²	立会調査
18	木田郡三木町池戸	農村振興総合整備事業 (三木北部地区)	土地改良課	12,500 m²	立会調査
19	綾歌郡綾南町飼野 下	経営体育成基盤整備事業 (綾南南部地区)	土地改良課	105,000 m²	立会調査
20	綾歌郡宇多津町平 山	平山(1)地区急傾斜地崩壊 対策	河川砂防課	約2,500㎡	分布調査

	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
調査の原因	調査主体・担当	調査期間	調査結果の概要
史跡屋島の指定地内のため	県教委・山下	16.4.2	包蔵地確認されず
天古遺跡に隣接	県教委・松本	16.4.7	埋蔵文化財包蔵地確認されず
鞍谷池東遺跡内での工事	県教委・山下、松 本	16.4.9~12	遺物確認されず、保護措置終了
奥白方南原遺跡に隣接	県教委・松本	16.4.16	埋蔵文化財包蔵地確認されず
木太中村遺跡に隣接	県教委・松本	16.4.21	確認調査の必要範囲を指示 埋蔵文化財包蔵地確認されず
寺山経塚に隣接	県教委・松本	16.4.23	確認調査の必要範囲を指示
事業面積が広大であるため	県教委・松本	16.5.6	埋蔵文化財包蔵地確認されず
事業面積が広大であるため (昨年度からの継続事業)	県教委・松本	16.5.7	埋蔵文化財包蔵地確認されず
本郷遺跡の範囲内での工事	県教委・松本	16.5.21 • 22	遺構・遺物確認、保護措置終了
太田下・須川遺跡の範囲内 での工事	県教委・山下、松 本	16.6.3、8.9、10.1	遺構・遺物確認、保護措置終了
事業面積が広大であるため	県教委・松本	16.6.4	試掘調査の必要範囲を指示
奥白方南原遺跡に隣接	県教委・松本	16.6.4	確認調査の必要範囲を指示
引田城跡の範囲内での工事	県教委・山下、松 本	16.6.11、9・16	厳重注意、発掘調査が必要な範囲を 指示
事業面積が広大であるため	県教委・松本	16.6.15	試掘調査が必要な範囲を指示
生野本町遺跡、勧智院林古 墳群に隣接するため	県教委・山下	16.6.23	埋蔵文化財包蔵地確認されず
東坂元秋常遺跡・北岡遺跡 に隣接	県教委・松本	16.6.29、7.15、 8.16、8.17、 10·26·27、12.15、 17.1.12	試掘調査が必要な範囲を指示 埋蔵文化財包蔵地確認されず
旧練兵場遺跡の範囲内であるため	県教委・山下	16.7.12	保護措置終了
始覚寺跡に隣接	県教委・松本	16.7.13、9·22、 10.6	試掘調査が必要な範囲を指示
釜ノ口窯跡に隣接	県教委・松本	16.7.14	窯ノ口窯跡の所在地を確認
平山城跡に隣接	県教委・松本	16.8.3	埋蔵文化財包蔵地確認されず

番号	位置	原因	事 業 主 体	事業面積	調査内容
21	高松市太田下町	琴電琴平線高架事業	国土交通省四国地 方整備局香川河川 国道事務所	2,890 m²	立会調査
22	三豊郡大野原町· 豊浜町	県道丸亀詫間豊浜線緊急地方 道路整備事業(花稲工区)	道路建設課	7,200m²	分布調査
23	木田郡三木町	県営単独緊急農道整備事業 (東讃南部3-1号地区)	農村整備課	31,000 m²	分布調査
24	仲多度郡多度津町	県道丸亀詫間豊浜線地方特定 道路整備事業 (多度津東工区)	道路建設課	12,500 m²	立会調査
25	東かがわ市引田	瀬戸内海国立公園城山園地工事	環境・水政策課 自然保護室	272 m²	立会調査
26	東かがわ市引田	瀬戸内海国立公園城山園地工事	環境・水政策課 自然保護室	272 m²	立会調査
27	丸亀市田村町・中 府町	県道高松善通寺線道路改修工 事(中府工区)	道路建設課	3,500 m²	立会調査
28	綾歌郡国分寺町	掘削を伴う演習	自衛隊		分布調査
29	仲多度郡多度津町	県道多度津丸亀線緊急地方道 路整備工事(多度津工区)	道路建設課	16,960m²	立会調査
30	東かがわ市引田	瀬戸内海国立公園城山園地工事	環境・水政策課 自然保護室	272m²	立会調査
31	仲多度郡多度津町 奥白方	県道多度津丸亀線道路改修工 事(奥白方工区)	道路建設課	23,800 m²	立会調査
32	三豊郡豊中町	県営単独緊急農道 (桑山農道)	農村整備課	13,000 m²	分布調査
33	丸亀市柞原町	田村池・田井池改修工事	香川農地防災事業所		立会調査
34	木田郡三木町	県営単独緊急農道 (東讃南部2号地区)	農村整備課	71,000 m²	分布調査
35	坂出市府中町	県道坂出城山鴨川線道路改修 事業	道路建設課	1,000 m²	立会調査
36	高松市川島本町	県道西植田高松線 (川島工区) 緊急地方道路整備事業	道路建設課	13,500 m²	分布調査
37	高松市多肥下町	高松南警察署レインボー交番 新築工事	香川県警察本部会 計課	100 m²	立会調査
38	高松市栗林町	栗林公園便所改装	観光振興課	133 m²	立会調査
39	東かがわ市松原	瀬戸内海国立公園 白鳥松原園地	環境·水政策課 自然保護室	約300㎡	分布調査
40	高松市屋島東町	トイレ撤去	環境・水政策課 自然保護室	84 m²	立会調査
41	高松市栗林町	栗林公園動物園跡地コンク リート基礎撤去	観光振興課	133 m²	立会調査
42	坂出市沙弥島	瀬戸内海国立公園沙弥島園地 工事	自然保護室	1m²	立会調査

調査の原因	調査主体・担当	調査期間	調査結果の概要
太田下・須川遺跡の範囲内であるため	県教委・山下、松 本	16.8.9	保護措置終了
事業面積が広大であるため	県教委・松本	16.8.10、12.3	試掘調査が必要な範囲を指示
石神池 2 号墳に隣接	県教委・松本	16.8.12 • 25	確認調査が必要な範囲を指示
試掘調査が必要な範囲を指 示	県教委・松本	16.8.16、9·3、 17.1.28	試掘調査が必要な範囲を指示
引田城跡の範囲内	県教委・山下	16.9.13	保護措置終了
引田城跡の範囲内	県教委・山下	16.9.27	保護措置終了
田村遺跡に隣接	県教委・松本	16.10.19·21、 11.10·17	遺構・遺物確認、隣接する「田村遺 跡」の範囲に含め、次年度発掘調査 を実施する予定
国分台遺跡の範囲内での工事	県教委・山下、松本	16.11.1.5	試掘調査が必要な箇所を指示
庄八尺遺跡の範囲内での工事	県教委・松本	16.11.2	遺構・遺物確認、保護措置終了
引田城跡の範囲内	県教委・山下	16.11.5	木橋の設置状況観察
奥白方南原遺跡の範囲内で の工事	県教委・松本	16.11.22、12・1	遺構確認、保護措置終了
不動の滝遺跡の範囲内での 工事	県教委・松本	16.11.24、17.1.12	試掘調査の必要範囲を指示
田村池遺跡の範囲内	県教委・山下	16.11.25、26	保護措置終了
戸田城跡に隣接	県教委・松本	16.11.29	試掘調査が必要な範囲を指示
西福寺遺跡に隣接	県教委・松本	16.12.6	埋蔵文化財包蔵地確認されず
川島本町遺跡に隣接	県教委・松本	16.12.27	試掘調査が必要な範囲を指示
凹原遺跡の近接地のため	県教委・山下	17.1.11	埋蔵文化財包蔵地確認されず
栗林公園の範囲内	県教委・山下	17.2.7~2.18	保護措置終了
松原遺跡の範囲内での工事	県教委・松本	17.2.22	試掘調査が必要な範囲を指示
史跡屋島の指定地内のため	県教委・山下	17.3.7	保護措置終了
栗林公園の範囲内	県教委・山下	17.3.9	保護措置終了
県指定史跡沙弥ナカンダ浜 遺跡の範囲内	県教委・山下	17.3.18	保護措置終了

2. 発掘調査の概要

高塚(野津古古墳)

1. 所 在 地 観音寺市柞田町

字広庄乙3155-1 ほか

調査主体 観音寺市教育委員会
 調査期間 平成17年2月7日

~平成17年3月31日

4. 調査面積 769㎡

5. 調查担当者 観音寺市教育委員会事務局 生涯学習課 久保田昇三

6. 調査の原因 土地改良事業 (圃場整備)

7. 調査結果の概要

本調査区の中心部には「南無妙法蓮華経」の銘が刻まれた石碑が建てられている。この石碑はかって近くにあった高塚を油井集落の青年が開墾した際の石室の一部を供養のために建立したものといわれている。地番では観音寺市柞田町乙3155-1、3156-1がそれにあた

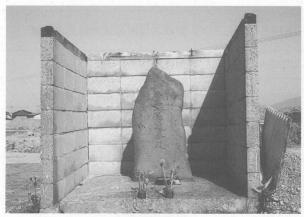


第1図 遺跡の位置(「観音寺」)

り、周知の包蔵地となっていた。今回はその石碑を中心とした周囲の土地を対象とした。

高塚に関しては、大正時代に作成された柞田村誌には「・・小サキ丘ノ如ク土■盛ラレタル一畝餘ノ廣サ塚アリタリ・・・然ルニ塚中ニーノ石棺如キモノアリテ中ニー振ノ剱、銅ニ金ノ象眼ノ耳環三個古代風ノ土器六十個位堀出ス・・」との記述がある。開墾した際の石材は近くのウガミ神社の境内に移したという話があり、現在もそれとおぼしき円形の盛土や石材が存在する。また、明治時代に作成された絵図には乙3155-1に相当する場所が石置場という表現がされている。この頃には既に破壊を受け石室の石材が露出した状態であったことが推測される。

今回の調査では、乙3156-1番で深さ30cm、幅3~4mほどの窪地状の地形を確認した。そこからは須恵器片など高塚に関連すると思われる遺物をはじめ、瓦片、陶磁器片、すり鉢片などが混在して出土したが、かって、どのような遺跡が所在していたかを示す明確な遺構は検出されなかった。おそらくは高塚と窪地状の地形であった場所を農用地として開墾する目的で墳丘や石室に用いられていた土や小石を窪地状の低いところに埋めたて、大きな石材やその他の土などは先ほどの神社に移されたことにより遺跡が消滅した可能性が高い。(久保田)



第2図 「南無妙法蓮華経」銘の石碑



第3図 遺構検出状況

タヌキ山古墳

1. 所 在 地 三豊郡高瀬町大字上麻3445

2. 調查主体 高瀬町教育委員会

3. 調査期間 平成16年8月18日~調査中

4. 調査面積 359㎡

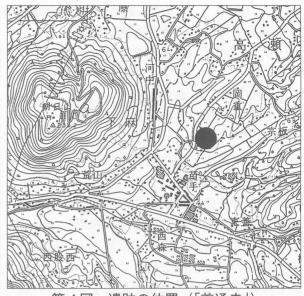
5. 調查担当者 高瀬町教育委員会事務局 生涯学習課 佐柳真樹

6. 調査の原因 調査復元事業

7. 調査結果の概要

今回の調査は古墳石室の石積みに孕みが 生じ、構造的に不安定となり崩壊の可能性も あったので、部分解体復元修理を中心に調査 を行った。

まず、古墳の規模確認のため2箇所のトレンチを設定した。トレンチ1においては周溝を確認することができたが、トレンチ2では



第4図 遺跡の位置(「善通寺」)

さらに第2、第3主体を確認したのみで、周溝は認められなかった。今回の調査目的は第1主体のみの調査であるので、記録に留めるのみとした。主体部に直交するトレンチ3と奥壁側に設定したトレンチ4では、版築状況と墓壙の掘り方を確認した。トレンチ3南側では明瞭な掘り方を確認することができたが、北側ではだらりと下がった形跡しか見られなかった。

当初、羨道のない石室と思われていたが石室を解体する際に流入土を取り除くと上部が大きく破壊された羨道が現れた。遺物は須恵器杯蓋身・鉄製刀子・管玉・梔子玉等が出土した。 8. まとめ

調査の結果、墳長約19m・墳高約3.4mの規模の古墳であることがわかった。 石室内床面及び羨道の調査、石積み復元について17年度に持ち越した。17年度には羨道部保護 のため、覆屋を建設する予定にしている。(佐柳)



第5図 トレンチ2



第6図 トレンチ3

おおよし が ようあと 宗吉瓦窯跡

1. 所 在 地 三豊郡三野町大字吉津字宗吉

2. 調査主体 三野町教育委員会

3. 調査期間 平成17年3月4日

~平成17年3月8日

4. 調査面積 約100㎡

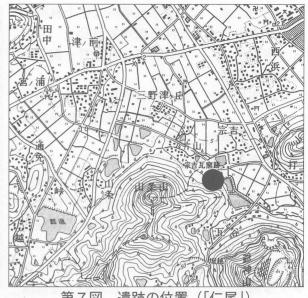
5. 調查担当者 三野町教育委員会

白川雄一

6. 調査の原因 史跡宗吉瓦窯跡整備事業

7. 調査結果の概要

平成16年度の史跡宗吉瓦窯跡総合整備活用 推進事業において、以前からの懸案となって いた、史跡指定地の南側に位置する国川池取 水口周辺の整備工事を行うこととなった。池 底を掘削するために重機が進入するための仮 設道を敷設する必要があったため、堤防の一

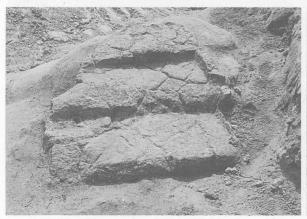


第7図 遺跡の位置(「仁尾」)

部を掘削する必要が生じた。立会の結果、11号窯の東側約5mの地点で新たに窯体(24号窯)の存在を確認し、窯体床面の一部を検出した。窯本体は11号窯と平行に構築されているものと推定される。窯の構造は地下式有段窖窯である。窯体の床面検出は上から3段のみにとどめている。床面の色調は表面が灰色~黒褐色を呈しているが、還元層は非常に薄い。窯の側壁部分については後世に行われた開墾により、そのほとんどが失われている。焼成部の下位および燃焼部については後世の厚い盛土に覆われているため、17号窯と同様、比較的良好に残存している可能性がある。床面の傾斜角度や段の形状などから判断して、平成11年度に窯体内部を調査した17号窯とほぼ同様の構造を持つものと思われる。

以上のことから、24号窯も11号窯及び17号窯と同じ操業単位であるC群に含まれる可能性が強く、藤原宮成立以前の7世紀中頃~7世紀第四半期において、既に3基以上の瓦窯が操業していたことが明らかとなった。また、国川池の底には未発見の窯が存在する可能性がある。史跡指定地内のため、調査終了後は土嚢により埋め戻し、保存盛土及び芝貼りを施した。

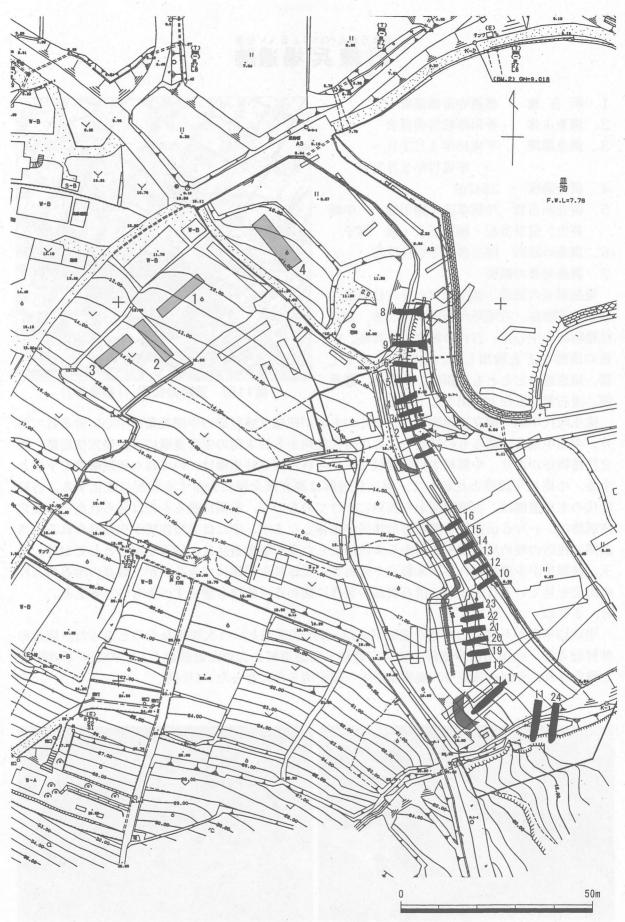
なお、史跡指定地西側に広がる緩斜面では、4ヵ所の調査区を設定したものの、瓦窯の操業 に関連するとみられる重要遺構等は確認できなかった。(白川)



第8図 24号窯床面検出状況



第9図 窯体の養生



第10図 宗吉瓦窯跡トレンチ配置図(1:1,000)

きゅうれんぺいじょう いせき 旧練兵場遺跡

1. 所 在 地 善通寺市仙遊町

2. 調査主体 香川県教育委員会

3. 調査期間 平成16年4月1日~ 平成17年3月31日

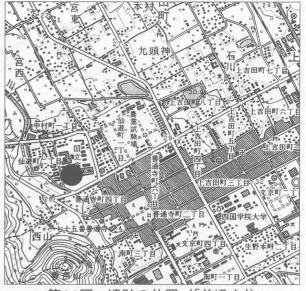
4. 調査面積 3.547 m²

5. 調查担当者 片桐孝浩·細川健一·中嶋 将史·信里芳紀·福家正人·森 麻子

6. 調査の原因 国立善通寺病院改修

7. 調査結果の概要

発掘調査の結果、弥生時代の竪穴住居跡、 掘立柱建物跡、古墳時代の竪穴住居跡、掘立 柱建物跡を中心に、古代の掘立柱建物跡、中 世の溝跡などを検出した。遺物では弥生土 器、須恵器などとともに銅鏃、銅鐸片、懸垂 鏡、滑石製臼玉などが出土している。



第11図 遺跡の位置(「善通寺|

弥生時代中期の掘立柱建物跡は、多くのものが凹線文盛行期の中期後葉を中心に営まれており、中期中葉まで遡るものはない。弥生時代後期から終末期の主要遺構には、竪穴住居跡、掘立柱建物跡があり、中期後半以降継続して見られた掘立柱建物は、いずれも後期前葉を下限とする。中期後半段階と比較して、竪穴住居跡は調査区全域に分布する状況に変化する。古墳時代の主な遺構は、古墳中期から後期にかけてのもので、前期に遡るものは見られない。竪穴住居跡は、一片5m前後を測る方形住居が主体となるが、中には大型住居が少数見られる。当該期の住居の埋め戻し土や床面から多数出土した滑石製模造品は、臼玉を中心としており、勾玉、紡錘車が少数見られる。未製品や砥石等の製作具を明確にできないが、数点の滑石の石片の出土を見ていることから、滑石製品の製作に関わる可能性も想定すべきものと考える。

8. まとめ

平成13年度から継続してきた発掘調査は、約15,000㎡という大規模なものとなった。周辺の仲村廃寺跡・弘田川西岸遺跡・彼ノ宗遺跡・仙遊遺跡を含めた遺跡群としての広がりは50haと推定され、今回の調査で大規模集落の一端が明らかになった。(片桐)



第12図 堀立柱建物跡



第13図 竪穴住居跡

きくづか こふん 菊塚古墳

1. 所 在 地 善通寺市善通寺町字大池東

2. 調查主体 善通寺市教育委員会

3. 調査期間 平成16年11月1日~

11月30日

4. 調査面積 50.7㎡

5. 調查担当 文化振興室 渡邉淳子

6. 調査の原因 確認調査

7. 調查概要

昨年度の前方部の調査に続き、今年度は後 円部の墳丘裾範囲確定のため、後円部南側(第1・2トレンチ)と後円部東側(第3・3 ´ トレンチ)、後円部北側(第4トレンチ)の 全部で合計5箇所のトレンチを設定した。

各トレンチより、基盤層削り出しの墳丘裾 部分が検出された。裾のラインは、玄室奥壁



第14図 遺跡の位置(「善通寺」)

の中心を基点に直径約39.0mの円周を描く。第3・3′トレンチ・第4トレンチでは、墳丘裾に溝状遺構が検出された。溝の最大幅は2.6mであり、その上を粘土層が覆っている。また第3トレンチでは、近世〜近代の砂糖竈2基を検出した。

遺物は、上層から近・現代の土器や瓦が出土した他は少量である。砂糖竈からは、近世末~近代にかけての土師質甕・肥前磁器・瓦を検出した。また墳丘に関連する土層については、第3トレンチの墳丘裾溝状遺構埋土から土師器把手付椀が、第3・3´トレンチの墳丘盛土崩落土からは弥生土器破片が出土した。土師器把手付椀は、把手部のみ出土している。弥生土器は、細片で摩滅が著しいことから、二次的な埋没によるものと考えられる。

8. まとめ

墳丘裾の範囲を凡そ把握することができた。これまでの墳丘測量やトレンチ調査により復元 した復元案とほぼ合致する結果となっている。また今回の調査では、墳丘裾部分で溝状遺構を 検出しており、前方部端部の溝状遺構との関係、周濠・周堤の有無など検討課題が残る。今後 はくびれ部の調査も含めて、正確な墳丘復元を試みる予定である。(渡邉)



第15図 4トレンチ全景



第16図 3トレンチ全景

し こくがくいんだいがくこうない い せき 四国学院大学構内遺跡

1. 所在地 善通寺市善通寺町3-2-1

2. 調查主体 善通寺市教育委員会

3. 調查期間 平成16年12月3日~

12月10日

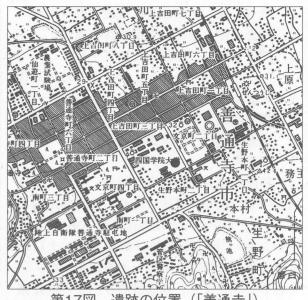
4. 調査面積 約140㎡

5. 調查担当 文化振興室 渡邉淳子

6. 調査の原因 学生支援センター建設

7. 調査結果の概要

調査地は四国学院大学構内南東隅に該当す る。大学構内は、平成13・14年度の調査(グ ラウンド部分) で古代の集落跡を検出してお り、今回の調査区は前調査区から150m程離 れた東南に位置している。トレンチは、調査 対象地区内で東西・南北方向に帯状に合計 3ヶ所設定した。各トレンチともに基本層序



遺跡の位置(「善通寺」)

は、3層に大別出来る。第1層は表土で、上土・花崗土である。第2層は炭層で、旧陸軍時代 の堆積層であると考えられる。明治41年に騎兵隊の兵舎が火事で焼失した記録があり、炭層は この時のものではないかと考えられる。

第3層は礫層・微砂層で洪水時の堆積層である。礫層の礫の大きさは層によって大小様々で あり、長時間水流の摩滅を受け形状は丸みを帯びている。礫層と微砂層が互層になり、多方向 へ地表面を繰り返し侵食し堆積している状況が各トレンチの断面から窺える。 遺構は、第2層 の面で旧陸軍時代の建物と考えられる炭湿じりのピットを検出した他は、明確な遺構は確認で きなかった。遺物は、全く検出されなかった。

8. まとめ

調査区一帯が河川の氾濫原であり、集落の中でもこの付近は住居跡等の遺構密度が希薄で あった可能性が高い。河川は各トレンチの断面をみても、数回にわたり大規模な氾濫を繰り返 しており、流路の方向は多方向に及ぶ。今後、大学構内遺跡並びにその周辺の集落遺跡の広が りや利用状況を把握するうえで、有益な情報となり得るであろう。(渡邉)



第18図 第1トレンチ全景



第19図 第2トレンチ全景

ぜんつう じ きゅうけいだい 善诵寺旧境内

- 1. 所 在 地 善通寺市善通寺町3-5
- 2. 調查主体 善通寺市教育委員会
- 3. 調查期間

平成15年度

1次 7月17~24日 2次 9月22·23日

3次 2月20日 4次 3月15·16日

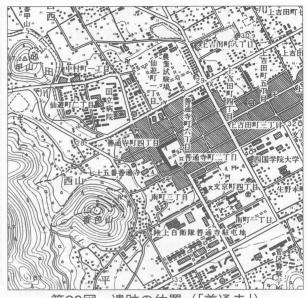
5次 3月22、25·26日

平成16年度

1次 4月22·23日 2次 8月5~13日

- 4. 調查面積 計93.4㎡
- 5. 調查担当 文化振興室 渡邉淳子
- 6. 調査の原因 構造物建設
- 7. 調査結果の概要

総本山善通寺は、平成18年に創建1200年を 迎える。それに伴い平成15年度から境内整備



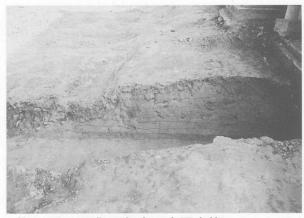
遺跡の位置(「善通寺」) 第20図

が行なわれている。そこで、平成15・16年度にわたって構造物建設予定地において、確認調査 を実施した。調査は7次に及び、旧境内周囲の塀と五重塔・三帝御廟付近に合計14ヶ所トレン チを設定した。

周囲塀部分の調査(15年度1・2・4次、16年度1・2次)では、西辺、南辺東部、北辺にお いて十手状遺構を検出した。時期は西辺(15年度1次)調査で出土した遺物から中世前半~室 町期にかけてと推測される。下層には、西・北辺(15年度1・2次、16年度2次)で弥生時代 の包含層及びピットを確認している。五重塔付近の調査(15年度3次)では、中世の遺物包含 層のみで、明確な遺構は確認できなかった。三帝御廟付近の調査(15年度5次)では、中世以 前の遺物包含層のみで、明確な遺構は確認できなかった。

8. まとめ

中世段階において、善通寺旧境内の四周には土手状遺構が築造されていたことが明らかに なった。また、下層には弥生時代の包含層及び遺構が存在しており、善通寺創建以前から継続 して集落が形成されていたと推測できる。(渡邉)



第21図 平成15年度 1 次調査第 1 トレンチ 第22図 平成16年度 2 次調査第 3 トレンチ



ぜんつう じ じんしょあと 善通寺陣所跡

1. 所 在 地 善通寺市善通寺町3-3-1

2. 調査主体 善通寺市教育委員会

3. 調査期間 平成16年7月1日~

7月16日

4. 調査面積 約37㎡

5. 調查担当 文化振興室 渡邉淳子

6. 調査の原因 納骨堂建設

7. 調査結果の概要

調査地は善通寺陣所跡の南東隅に該当する。善通寺陣所跡は永禄元(1558)年、三好 実休が香川氏との合戦のため陣所を構えたと されているが、『南海治乱記』による記述の みで昨年度まで考古学的な調査は全く行われ ていなかった遺跡である。今回の調査では納 骨堂建設予定地に調査区を設定した。



第23図 遺跡の位置(「善通寺」)

層位は、花崗土及び現代の堆積土を除くと2層に大別できる。第1層は近代の堆積層、第2層は基盤層(遺構面)である。さらに下層は深掘トレンチを掘削したが、砂質湧水層が確認されたのみで、人為的な痕跡は確認できなかった。

調査区のほぼ半分が木根で覆われていることもあり、検出した遺構はごくわずかである。第 1層の面からは、調査区東部で近・現代の骨蔵器を大量に含む土坑と、東壁北端と北壁で建物 の基礎と思われる石列を検出した。第2層の面からは、土坑3基、ピット5基を検出した。

埋土や出土遺物の内容から近・現代のものを除くと、土坑1基、ピット4基となる。うち土坑1基より瓦が出土した。破片であるため明確な時期は確定できないが、おそらく中世頃の所産であると考えられる。残りの遺構は遺物が検出されなかったため、時期の特定は困難であるが、埋土の状況が先の土坑と近似していることから概ね同じ時代とみて差し支えないであろう。8. まとめ

中世頃と推定される遺構・遺物を検出した。前年度、今回調査区の西南に隣接するトレンチで古代の溝状遺構を検出しているが、今回の調査では関連する遺構は検出されなかった。(渡邉)



第24図 調査区全景



第25図 土坑完堀状況

たるいけにして さんちょうふん ごう 樽池西手山頂墳3号

1. 所 在 地 善通寺市善通寺町字伏見奥

2. 調査主体 善通寺市教育委員会

3. 調査期間 平成17年2月10日~

3月10日

4. 調査面積 8.4㎡

5. 調查担当 文化振興室 渡邉淳子

6. 調査の原因 確認調査

7. 調査結果の概要

樽池西手山頂墳3号は、大麻山から北西に派生する尾根上に立地する。周囲は「伏見奥古墳群」と称せられ、かつては横穴の小規模な円墳が群集している状態であったが、開墾等で現在はその殆どが消滅している。近年隣接する尾根で開発行為が進んでいることから、現存している古墳の把握が必要であると考え、調査をするに至った。



第26図 遺跡の位置 (「善通寺」)

石室は奥壁幅1.4m、現存長6.0mの無袖横穴式石室である。石室の石材は安山岩である。玄室床面奥壁側は掌大の石の上に径約0.3~0.5mの大型の平石を敷く。大型の平石上面堆積土より男女2体の人骨が出土した。土器は、大型の平石直上より七世紀末の須恵器・土師器が、床面より7世紀前半の須恵器・土師器が出土している。玄室奥壁より開口部へ4.5mの地点で平石を並べた仕切り石があり、それより開口部側は閉塞石で塞がれている。前庭部は炭が堆積しており、7世紀前半の須恵器・土師器が出土している。床面は拳大の石が敷かれていた。墓前祭祀の可能性がある。

8. まとめ

今年度は、石室を中心に調査を行なった。その結果、古墳時代終末期の横穴式石室であることが明らかになった。玄室床面は2層の石敷きであり、上層と下層で遺物の時期差がみられ、追葬若しくは再利用されたと推測される。次年度は床面の下層確認調査と前庭部の調査を行なう予定である。(渡邉)



第27図 石室全景



第28図 人骨出土状況

いかのはらいせき 牛野原遺跡

1. 所 在 地 善通寺市生野町原

2. 調查主体 香川県教育委員会

3. 調査期間 平成16年10月1日~

平成17年1月31日

4. 調査面積 2.317㎡

5. 調査担当者 香川県埋蔵文化財センター 長井博史、新谷正徳、宮武直人

6. 調査の原因 善通寺バイパス道路改良工事

7. 調査結果の概要

調査の結果、古墳時代から近世の遺構、遺 物を確認した。主な遺構として I 区SX105が ある。これは平面形がほぼ方形であり、規模 が東西4.5m、南北4.2m、深さ18cmを測る。 床面では中央西寄りに焼土面、また東側を中 心にピット群を検出した。

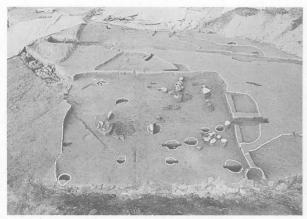


第29図 遺跡の位置

出土遺物には土師器の壺、甕、高杯などがある。古墳時代中期に位置づけられる。遺構の性 格として竪穴住居の可能性が考えられる。だが、配置的に主柱穴の可能性をもつピットは規模 が小さく、浅い。また壁溝も検出されなかった。なお、立地的にごく浅い谷地形内部にあるこ と、周囲に遺構、遺物がほとんど存在せず、生活の痕跡が極めて希薄であることは通常の竪穴 住居が形成される環境と大きく相違する。このため現状では性格不明遺構としたい。

8. まとめ

生野原遺跡では主に古墳時代の遺構、遺物を検出したが、これらは希薄な分布を示す。こう した環境のもと、I区SX105では竪穴住居状を呈する遺構にまとまって遺物が出土したという 状況に遺跡内での異質性が認められ、注目される。現在のところ、この遺構の性格は不明で あるが、仮に竪穴住居であるとすれば単独で存在し、通常採らない立地にあり、周囲に生活痕 跡が乏しいことは一般集落でないことを、また構造の簡易性はこれとも関連し仮設的な建物で あったことを反映するのかもしれない。だが一方で居住遺構でないなら何かについての検討も 必要である。今後、複眼的に検討し、遺跡全体の評価につなげたい。(長井)



第30図 I区SX105遺物出土状況(南から)



第31図 I区SX105完掘状況(南から)

まくしらかたなかおち い せき 奥白方中落遺跡

2. 調査主体 香川県教育委員会

3. 調査期間 平成16年5月1日~

7月31日

4. 調査面積 1,226㎡

5. 調査担当者 香川県埋蔵文化財センター 森下英治・中里伸明

6. 調査原因 県道多度津丸亀線建設

7. 調査結果の概要

奥白方中落遺跡は弘田川支流が形成した標高約20mの河岸段丘上に立地する。調査の結果、弥生時代・古代の集落遺跡であることが判明した。主な遺構は弥生時代中期末から後期前半までの竪穴住居跡10棟、掘立柱建物跡7棟、古代の掘立柱建物跡6棟である。また



第32図 遺跡の位置(「仁尾」)

遺構面直上にて、皇朝十二銭10枚がまとまって出土した。

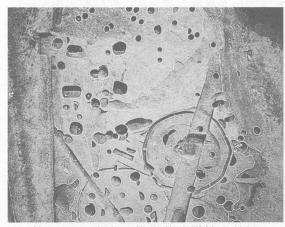
弥生時代の竪穴住居跡には住居外側に幅1m内外の周溝が巡るものがあり、周堤帯が附属したことが分かる。掘立柱建物跡はいずれも梁間1間の構造で、高床倉庫跡と推定される。竪穴住居跡、建物跡柱穴等から3点の鉄器が出土した。

皇朝十二銭10枚は3ブロックに分かれ錆着していたが、X線撮影によりすべてが「隆平永宝」 (初鋳796年)と判明した。

8. まとめ

奥白方中落遺跡は従来から丘陵上に古墳などの遺跡が多いことで知られる奥白方地区において、初めて段丘面を発掘調査した事例である。弥生時代中期末ごろの集落跡は従来、高所地に移ると見られていたが、このような緩傾斜地の段丘面にも集落遺跡が存在することが判明した。

また、古代の皇朝十二銭がまとまって出土したことから、今回調査地の周辺に古代集落跡が 広がっている可能性が高い。皇朝十二銭は有力氏族に関わりの深い遺跡で出土する場合が多い とされることから、この地域の有力氏族との関係も考慮する必要があろう。(森下)



第33図 弥生時代集落遺構検出状況



第34図 隆平永宝 保存処理後写真

寒白方南原遺跡

1. 所 在 地 仲多度郡多度津町

2. 調査主体 香川県教育委員会

3. 調査期間 平成16年4月1日~

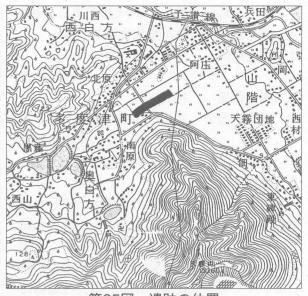
9月30日

4. 調査面積 3.611㎡

- 5. 調査担当者 香川県埋蔵文化財センター 森下英治、長井博史、新谷正徳、 中里伸明、宮武直人
- 6. 調査の原因 県道多度津丸亀線道路改良 事業

7. 調査結果の概要

調査の結果、東側にあるA~D区では主に中世の集落域と付随する墓群を、E~K区では弥生時代の旧河道、中世の土坑、溝などを検出した。このうち主な遺構としてA区SB02、B区ST01がある。



第35図 遺跡の位置

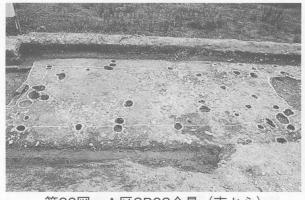
A区SB02は梁間1間 $(2.8 \,\mathrm{m})$ ×桁行3間 $(6.4 \,\mathrm{m})$ を測る掘立柱建物である。主軸方向はN-56° – Eであり、条里型地割の方向に載る。出土遺物には土師器杯小片などがあり、時期は中世に属すると考えられる。

B区ST01は長径1.99m、短径0.93m、深さ28cmを測る木棺墓である。土坑の中央北寄りで人骨を確認した。埋葬姿勢は屈葬である。副葬品として白磁碗がある。遺構の時期は床面付近で出土した和泉系瓦器碗の破片より13世紀前半に位置づけられる。

8. まとめ

奥白方南原遺跡では主に弥生時代と中世の遺構を検出した。まず弥生時代であるが、遺構を確認した弥生中、後期を通して旧河道、溝が少数見られるのみであり、出土遺物も乏しい。

次いで中世であるが、集落域は主に東端部のA区付近に広がる。これを構成する遺構の多くは中世前半に位置づけられるが、建物群は微高地の頂部に、井戸と出水状遺構は微高地の縁辺部に、墓は微高地からごく緩やかに下る斜面部に形成されており、それぞれの間には区画するように南北溝が見られる。こうした状況より遺構の詳細な時期は未確認であるが、坪内の微地形に応じて異なる性格の遺構を形成し、それらを溝で区切った景観が復元できる可能性がある。(長井)



第36図 A区SBO2全景(南から)



第37図 B区ST01人骨検出状況(南から)

なかひがしい せき中東遺跡

2. 調査主体 香川県教育委員会

3. 調査期間 平成16年4月 (調査)

平成17年1月(整理)

4. 調査面積 324㎡

5. 調査担当者 香川県埋蔵文化財センター 森下英治・中里伸明

6. 調查原因 県道多度津丸亀線建設

7. 調査結果の概要

中東遺跡は、県史跡盛土山古墳の西側に広がる遺跡である。これまでの調査で古墳時代中期の墳墓跡1基、中世の墳墓跡1基、中世埋没の河川跡を確認している。今回の調査では、幅7m、深さ0.6mの中世条里地割に伴う溝跡を1条確認した。埋土中から12~14世



第38図 遺跡の位置(「仁尾」)

紀の土師質土器が出土し、14世紀中葉頃に一旦埋没したものと推定される。当該溝跡は西方の 奥白方南原遺跡でも確認されており、少なくとも、延長約200mの範囲に地割の施工が想定で きる。また、溝跡に先行する遺物包含層には弥生時代から奈良時代ごろの遺物が含まれる。そ の最下部で弥生時代後期の土器溜りを確認した。遺物量はコンテナ約2箱分である。今年度調 査分の整理作業を平成17年1月に埋蔵文化財センターにて行った。

8. まとめ

弥生期の土器溜まり資料は終末期から古墳時代初頭にかけて比較的短期間に投棄された資料といえる。東方、約500mの舟岡山遺跡で出土した弥生時代後期後半土器資料の直後に位置づけらる。

また、条里地割の施工状況を示す資料が得られた。溝跡に先行する窪地堆積層には8世紀前半期の須恵器までしか含まれないことから、8世紀前半期に周辺の土地利用形態に変化があったものと思われる。(森下)



第39図 中東遺跡全景



第40図 弥生時代終末期土器溜まり

にしなが お じょうせき 西長尾城跡

1. 所在地 香川県綾歌郡綾歌町岡田上字 国吉2312-10、2312-13

2. 調查主体 綾歌町教育委員会

3. 調查期間 平成16年7月20日~

9月17日

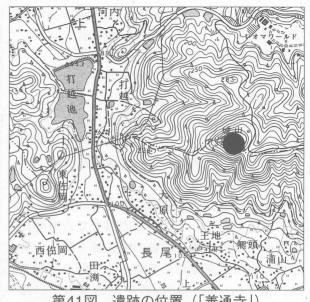
4. 調查面積 約2.300㎡

5. 調查担当者 綾歌町教育委員会主任主事 近藤武司

6. 調査の原因 分布確認調査 (国庫補助事業)

7. 調査結果の概要

西長尾城は、讃岐を代表する中世山城のひ とつである。遺構の大部分は、標高375.2m の城山山頂を含むピーク部分とその南東下か ら猫山に向かって延びる尾根上に所在してお り、現在も比較的良好に残存している。



第41図 遺跡の位置(「善通寺」)

綾歌町では、平成8年度から平成12年度まで国庫補助事業を利用して尾根上の遺構が確認で きる部分及びその周辺について地形測量による遺構分布確認調査を実施してきた。

その結果、城山山頂部から北東部に派生する2条の尾根上には比高約50mに渡る連郭式郭列 が構築されていることがわかった。また、その縁辺部には土塁が配されており外部を遮へいし ている。その外側には空堀が多く設けられていることも分かった。更に、東の猫山に向かって 続く尾根上には広大な削平地が設けられており、陣城としての要素を兼ね備えていることが確 認されている。

今年度は、主要な遺構の内、調査に至っていなかった東尾根削平地の東端付近を中心に確認 調査を実施した。

調査の結果、東尾根削平地の東端部は、長さ36mの曲輪(第30郭)として整備されているこ とが認められた。また、その東端南半部には小規模ながらヤグラ台と認められる高まりが配置 されている。東尾根削平地の西端にもヤグラが設けられており内外との連絡拠点として城内で も特に重要な箇所のひとつであると考えられる。更にその北側には、森林公園管理道によって 半壊しているが角を持った窪地が認められる。以前の報告と併せて検討すると、その窪地は枡 形虎口と考えることが適当である。西長尾城内には、他にも枡形と捉えられる虎口が多く確認 できることから極めて厳重な造りとなっていることがわかる。

枡形虎口から東へ切岸を5m程下ると堀切が2箇所連続して配置されている。この二重堀切 が西長尾城の東端に位置する施設となる。以前はこの二重堀切中央に土橋が備えられていたこ とが確認できていたようであるが、現在は、森林公園管理道の整備による切り盛りのため本来 の姿を確認することができない。いずれにせよ二重堀切以東に遺構の確認ができないことから も当地が東面の玄関口であったことが読み取れる。

また、第30郭の北部に曲輪が2箇所確認できた。これは、二重堀切に付帯するものであるか 以北に展開する遺構に伴うものであるのかは現在のところ不明である。

以上が、今回までの調査で得られた西長尾城の遺構概要である。

8. まとめ

今回の調査によって、城山山頂及び猫山へ向かう尾根上にかけて南北約240m、東西約370m の範囲に中世城郭遺構が展開していることが明らかとなった。これは、尾根上で確認できる主 要な遺構の調査結果であり、斜面部などを含めると更に大規模になると予想される。

この遺跡は2つの性格を持ち合わせているようである。ひとつは、西端の城山山頂を含む主郭 部で連郭式郭列や土塁、空堀を多用し、極めて内容の濃い造りとなっている。もうひとつは、 東のなだらかな尾根上に造られている広大な削平地である。これは、主に陣城として整備され たものと考えられる。

また、見過ごしてはいけないのが、中讃はもとより高松平野まで広く眺望できる絶好の立地 である。雨霧城や本篠城など他の主要な城郭を見据えることもでき、西下方には土器川を見下 ろせる位置でもあり東讃攻略の拠点としても利用されたようである。

(近藤) (調査成果は、『綾歌町内遺跡発掘調査報告書 第9集 西長尾城跡』(綾歌町教育委員 会2005.2.28) にて報告)



第42図 二重堀切 (東より)

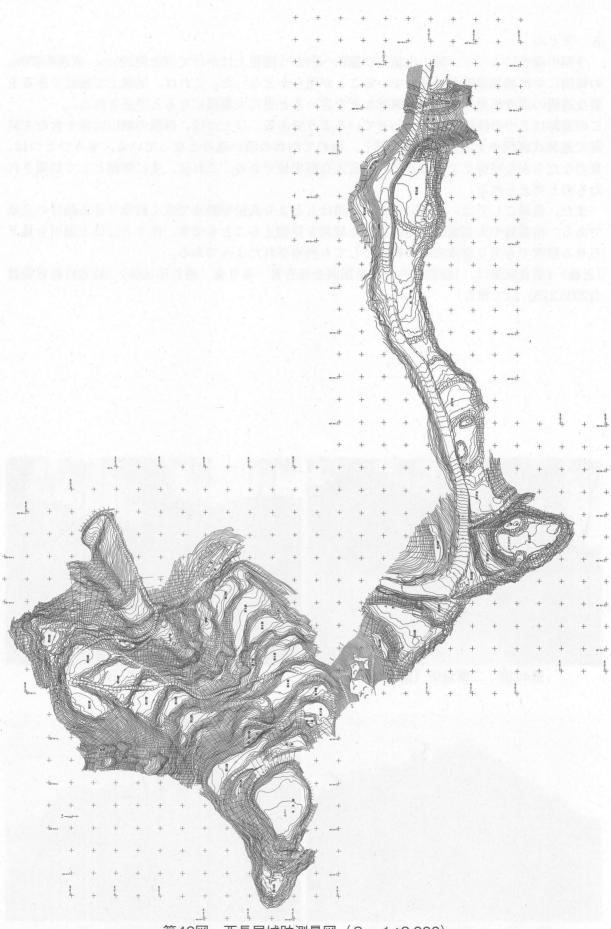


第43図 二重堀切(南より)





第44図 主郭部近景(東より) 第45図 第30郭枡形虎口(西より)



第46図 西長尾城跡測量図 (S=1:2,000)

大堀 城跡

1. 所 在 地 仲多度郡満濃町吉野1189-5外

2. 調査主体 香川県教育委員会

3. 調査期間 平成16年10月~11月(調査)

平成16年12月(整理)

4. 調查面積 450m²

5. 調査担当者 香川県埋蔵文化財センター 森下英治・中里伸明

6. 調查原因 県道財田満濃線道路拡幅

7. 調査結果の概要

大堀城跡は南北約135m、東西約87mの範囲に堀や土塁を備え、かねてより中世城館として知られていた。今回の発掘調査は当初16世紀頃の戦国期城館跡を調査の主眼として考えていたが、精査の結果、溝で区画された居館が確認された。



第47図 遺跡の位置 (「善通寺」)

区画溝は30cmほどの亜円礫を3段ほど積み上げた石垣を伴う。溝の外側では掘立柱建物跡を2棟、内側では掘立柱建物跡7棟、柵列跡5基、地鎮祭祀跡などを確認した。これらの遺構は出土遺物を検討した結果、13世紀後半、14世紀前半、14世紀後半の3時期に区分できた。8. まとめ

大堀城跡は堀・土塁が現存する中讃地域を代表する平地式中世城館とされ、江戸時代作成の 絵図も現存する。今回の調査では、土塁で囲まれた内部にさらに石垣を伴う区画溝が確認され た。区画溝内部には13世紀から14世紀後半の多数の建物が分布し、多くが重複することから、



第48図 区画溝と多数の柱穴群

長期にわたる存続期間が想定される。現段階では現存する堀・土塁部分が今回の13~14世紀の居館に伴うものか、否か、いずれとも判断できない。他の場所に14世紀後半以後の建物跡が存在しないかどうか、などを含めて、今後も総合的に遺跡内容を検討する必要があるものといえる。(森下)



第49図 出土した輸入陶磁器

なかでらはいじぁと中寺廃寺跡

1. 所 在 地 仲多度郡琴南町造田3469-2他

2. 調査主体 琴南町教育委員会

3. 調査期間 平成16年8月9日~

平成16年11月30日

4. 調査面積 300㎡

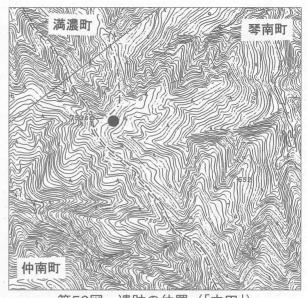
5. 調查担当者 琴南町教育委員会

加納裕之

6. 調査の原因 琴南町内遺跡発掘調査事業

7. 調査結果の概要

中寺廃寺跡は標高675m~730mの山中に立地し、創建時期が山岳仏教草創期の10世紀に遡る山岳寺院である。寺院の伽藍を構成する平坦地は、字「中寺」周辺に4地区(A・B・C・D地区)所在し、各地区は3~6ヶ所の平坦地で構成される。各平坦地では規則的に並ぶ



第50図 遺跡の位置(「内田」)

礎石や集石等の遺構を確認している。平成16年度は伽藍の中心的な施設である塔跡・仏堂跡を調査した。塔跡(第51図)においては重量のある塔を支えた平坦地の地下構造を確認し、須恵器甕破片を転用した硯等が出土した。仏堂跡(第52図)においては礎石建物跡とそれに先行する掘立柱建物跡を確認し、漆が塗布された土師器坏や、和釘や金具が出土した。出土遺物の時期は10世紀前半~11世紀の範疇に収まる。また、瓦の出土は未確認であるため、建物屋根は植物等により葺かれていたと考えられる。なお、文献調査を通じて中寺廃寺は19世紀前半にはすでに寺の名称不明の状態であったこと、また当時伝承されていた位置が想定できた。

8. まとめ

字「中寺」の範囲に中心のA地区を囲みB地区・C地区が立地する状況からは、A~C地区が同時に並存し、それぞれが有機的な関係で結ばれていたと推定される。また、D地区については、文献調査成果と昭和59年度調査において中世前半~近世の遺物が表採されている事を総合すると、A~C地区の寺院よりも後出する寺院が展開した地区であると考えられる。(加納)



第51図 塔跡礎石検出状況



第52図 仏堂跡礎石検出状況

ひがしさかもとさん の いけ い せき 東坂元三ノ池遺跡

1. 所 在 地 綾歌郡飯山町東坂元

2. 調查主体 香川県教育委員会

3. 調查期間 平成16年8月~9月

4. 調查面積 500 m²

5. 調査担当者 香川県埋蔵文化財センター 長井博史・宮武直人

6. 調査の原因 国道438号道路改築事業

7. 調査結果の概要

昨年度、発掘調査を行うことが不可能で あったVI区について調査を実施した結果、周 辺調査区と同様に平安時代前期の掘立柱建 物、溝、土坑などを検出し、当該期の集落域 が広がることを確認した。主要な遺構として VI区SB04、SK02がある。VI区SB04は総柱建 物である。規模は梁間3間×桁行4間以上



遺跡の位置(「丸亀」) 第53図

(5.5m×6.0m以上)である。出土遺物には須恵器杯、土師器杯などがあり、10世紀前半に位置 付けられる。

VI区SK02は平面形がややいびつな長方形を呈する土坑である。規模は長径2.73m、短径1.0 m、深さ23cmを測る。埋土は3層に区分されるが、いずれも黄褐色粘土ブロックを含むため 人為的に埋め戻されたと考えられる。出土遺物には土師器、須恵器、黒色土器などの破片があ り、28リットル入りコンテナ1箱分と比較的多量である。

8. まとめ

Ⅵ区では周辺調査区と同様に建物群などで構成される平安時代前期の集落域が確認された。 特徴として時期幅が9世紀末~10世紀前半と周囲より短期間であること、その割に南部で建物 の重複が目立つことがある。これと同様な状況は南側に隣接するⅢ区の建物群(10世紀前半) でも窺え、この範囲で居住が継続されたことを示す。このことは丘陵頂部という立地、集落内 で規模が大きい建物 (VI区SB04)、廃棄土坑 (VI区SK01~03) の存在などと合わせ、この部 分が集落域の中心であることを反映すると考えられる。なお、北側のV区で見られた波板状痕 跡はVI区では途切れ、確認されなかった。(長井)



第54図 VI区 SBO4全景(南から)



第55図 VI区SK01~SK03遺物出土状況(南

ナカンダ浜遺跡

1. 所 在 地 坂出市沙弥島北通り141-4

2. 調查主体 坂出市教育委員会

3. 調査期間 平成16年11月15日~ 平成16年12月15日

4. 調査面積 14.3m²

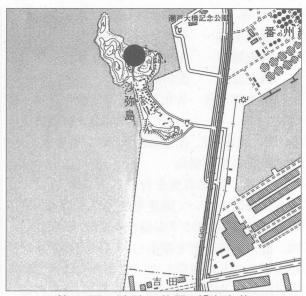
5. 調查担当者 社会教育課 今井和彦

6. 調査の原因 トイレ改修工事

7. 調査結果の概要

調査区は沙弥ナカンダ浜の東に位置し、新地山の裾部となる地点である。この場所は浜よりもやや高くなっており、現状では簡易トイレが設置されていたが、このトイレの改修工事に先立ち、当該地の遺跡確認調査を実施した。

トレンチは幅1mで地形に沿って長く設定



第56図 遺跡の位置(「本島」)

したが、改修前のトイレを中心に東西南北のトレンチを配して遺構確認を実施した。 西トレンチは浜の東に南北に流れる溝に向かってのものであったが、地表下約40c

西トレンチは浜の東に南北に流れる溝に向かってのものであったが、地表下約40cm~50cm で黒色粘砂質土を検出。弥生後期から古墳前期頃の遺物が出土した。特に製塩土器の脚部が多く出土。サヌカイト片も出土したが微量である。更に下層に茶褐色砂質層が堆積しており、この層より縄文後期、晩期土器片が少量出土。更に下層に行くに従い、明白色の砂質層となる。溝の掘削は古墳時代の層を切るかたちとなっおり、その掘削は陶磁器片などから、比較的時代が下ってからのものと考えられる。

南トレンチは北面と南面で土の堆積がややことなり、南東によるに従って砂質層から粘質 土へと変化しており、新地山丘陵裾部の堆積となる。砂質層から山土と推察される粘質土の 変換部分は南東角から東トレンチに向かっており、下層の砂質土の状態から、縄文時代にはこ の地点も海に近い地点となっていた可能性が高いが、弥生後期から古墳時代にかけては、海に 向かって浜が広がりをもち、粘質土は現在の海岸線に近い付近まで達してしたと推察される。 (今井)



第57図 西トレンチ遺物出土状況



第58図 南トレンチ土層状況

ナカンダ浜遺跡

1. 所 在 地 坂出市沙弥島北通り141-4

2. 調査主体 坂出市教育委員会

3. 調査期間 平成16年9月6日~ 平成16年10月29日

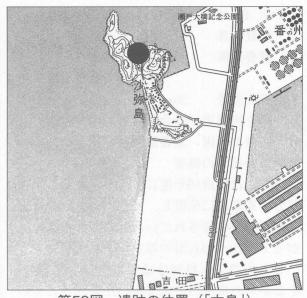
4. 調查面積 150㎡

5. 調查担当者 社会教育課 今井和彦

6. 調査の原因 台風災害に伴う緊急調査

7. 調査結果の概要

調査区は沙弥ナカンダ浜の砂堤部全域であり、台風による高潮から、一度浜全域が水没した後に更に次の台風により、今度は砂堤部分が抉り取られる状態となった。ナカンダ浜砂堤中央に位置するエノキも海に面する側の半分が抉られ根が露出する状態となった。過去に例のない高潮であり、市内の海浜部に位



第59図 遺跡の位置(「本島」)

置する一帯が被害を受けた。この台風被害の復旧作業の前に緊急に砂堤部の土層断面を作成。 今後の保存方法を検討するなか、応急処置として図取りと、簡易な埋め戻しを行った。

ナカンダ浜砂堤部の全体の略測図の作成ではあったが、浜の包含層の状況が良く分かるものとなった。中央エノキより東については、包含層は標高2.3mの付近に堆積しており、下層は縄文土器片を含む明茶褐色系の砂質土も存在する。ただし、西地区に見られる製塩土器の濃密な包含層は露呈していない。中央エノキ西地区では、3箇所の製塩土器露出層が確認され、特に古墳時代後期の大型化する製塩土器の堆積層が主体となる。わずかに脚台付の製塩土器片も検出されたものの、大半は古墳時代後期の土器片が中心である。

西地区では標高2m付近に包含層が位置しており、東地区に対して西の山手に向かってわずかに上昇している。西地区は縄文土器層は薄く、古墳時代の包含層の下に無遺物の明白色砂層が位置している点も東地区と異なる。

全体に砂堤部は攪乱箇所が随所に認められ、保存状態は悪いものの、濃密な包含層が保存されている地点もある。今後は再度この砂堤部の保存を検討し、自然海浜の景観を損なわないで、包含層を保護する計画を進める必要がある。(今井)



第60図 中央西製塩土器包含層出土状況



第61図 中央西製塩土器包含層出土状況

史跡城山

1. 所 在 地 坂出市西庄町1519-200

2. 調查主体 坂出市教育委員会

3. 調查期間 平成16年3月22日~

平成16年3月31日

4. 調查面積 30 m²

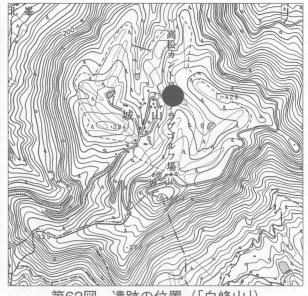
5. 調查担当者 社会教育課 今井和彦

6. 調査の原因 重要遺跡確認調査

7. 調査結果の概要

調査区は平成10年度に調査を実施した水門 部分の東地区に位置し、現在ゴルフ場の管理 道で石塁が切断されているところから東に向 かって約10mの石塁の写真実測を行った。

この内郭の石塁部分は奥に湧水地をもち、 そこからの排水口として水門が確認されてい る場所であり、この城門からこの谷部までが



第62図 遺跡の位置(「白峰山」)

石塁で築かれ、西の丘陵になるに従って土塁に変化する。現在は管理道で石塁が分断され、そ の高さは約1m~1.5mほどである。

本来の高さは不明であるが、標高37.7m付近が西の折れ部の石塁の高さであり、それと同じ 高さで谷部を堰き止めるように積まれていたとすると、4.5m以上の石組であったと考えられ、 谷部の最深部に位置していることから、防御壁としても最も高く築かれたのではないかと考え られる。

今回の実測部分は東7m付近に大木があり、実測できない箇所もあったが、この部分に大型 安山岩の露頭が残り、この自然石にもたせるように安山岩割石で石塁が積み上げられている。 石塁は高さ1m~1.7mほどである。石塁基底部の掘削は実施していなため詳らかでないが、 現在露出している最下層の石が基底石になるものが多く、あらかじめ大型の基底石を整然と据 えて石積みを実施するのではなく、岩盤を整地してその上や段差に合わせて割り石を積み上げ たものである。石積みの傾斜角度は約22度である。この石塁が東北に延び、その後東南に屈し て城門へと続くのであるが、今後も内郭部分を中心に実測を進め、城山の基礎資料となるよう 調査データを積み上げていくことが必要である。(今井)



第63図 内郭水門東石塁状況



第64図 内郭水門東石塁精査状況

さぬきこくぶんじぁと

1. 所 在 地 国分寺町国分2080-1

2. 調査主体 国分寺町教育委員会

3. 調査期間 平成16年5月17日~18日

4. 調査面積 50㎡

5. 調查担当者 国分寺町教育委員会

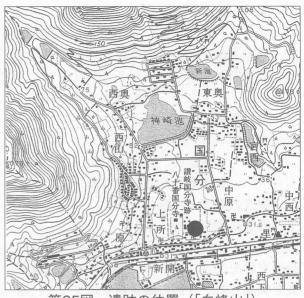
末澤直樹

香川県教育委員会文化行政課主任技師 松本和彦

6. 調査の原因 開発に伴う確認調査

7. 調査結果の概要

調査地は、特別史跡讃岐国分寺の東端部に位置し、現存する伽藍配置や過去の調査例によれば、明確な遺構は確認されていない範囲である。本調査は、宝林寺庫裡増築工事予定地の遺構状況を確認することが目的であった



第65図 遺跡の位置(「白峰山」)

ため、増築建物の平面形に沿ってL字形にトレンチを設定し、遺構を確認した西側について、調査区を対象地全面に拡張して実施した。その結果、検出された遺構は、いずれも近世段階 (19世紀前半) のもので、讃岐国分寺に関係する遺構等は確認できなかった。

調査区の東半部では滞水状態を示す埋土が認められ、西半部では遺構検出面直上に近世包含層もしくは旧耕作土を認めることができることから西から東へ傾斜する旧地形が復元できた。そのため、東半部は削平されている可能性が想定され、讃岐国分寺に関連した遺構は、削平によって消失した可能性が考えられる。その他、遺構として認識できない畑などとして利用されていたことも考えられる。

8. まとめ

今回の調査においても、寺域東半部では、讃岐国分寺に関連するような遺構は確認されず、 そのため先述したような、削平による消失か、畑等の生産地としての土地利用等が想定され る。(渡邊)



第66図 調査区全景



第67図 土層断面

どうやまじょうあと 堂山城跡

1. 所 在 地 綾歌郡国分寺町福家

乙121、122、123-1、125-1他

2. 調查主体 国分寺町教育委員会

3. 調査期間 平成16年7月20日~

平成17年1月31日

4. 調査面積 15,000㎡

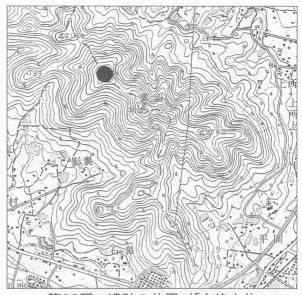
5. 調查担当者 教育総務課

末澤直樹、黒田真由美、堀 純子 坂出第一高等学校校長 秋山 忠

6. 調査の原因 遺跡分布調査

7. 調査結果の概要

平成16年度国宝重要文化財保存整備費補助 金の交付を受け、北峰の主要部の地形測量調 査を実施した。今回の測量調査によって、踏 査による縄張り図や写真撮影等を通じて把握



第68図 遺跡の位置(「白峰山」)

されてきた資料に比べ、より正確な郭、堀切、空堀、土塁などの規模や配置の状況を資料化することができた。北峰の頂部には20m×30mの南北に長い平坦地があり、主郭と推定され、郭の配置は北側に厚い。また、西側斜面には、幅4~6m、深さ0.7~1.2m、長さ70mの規模で掘り下げ、掻き揚げた砕石を斜面下方側の側端に石塁状に積み上げた空堀が認められた。東側は、北東下方の郭群に連絡する幅広の通路がつく他、通路状の箇所を設けた帯郭が6段あり、相互の連絡がとれる状況であり、主郭をよく防備する態勢が認められる。主郭の南東側には、4段の小郭があって南峰との鞍部に至る傾斜変換地点に取り付きの小郭と尾根筋を遮断する堀切状の地形が認められた。以上のような空堀や集約的な郭群の配置状況から、北峰が大手、南峰が搦め手の位置関係が推定される。

8. まとめ

築造の詳細な時期は不明であるが、縄張りの状況から室町~戦国末期のものと考えられる。 また、空掘の規模も県内では他に例を見ないものであり、他の中世城郭との構造や構築に関す る技術的な側面等の比較検討を通じて、歴史的位置付けを行っていく必要があろう。(渡邊)



第69図 堂山城遠景



第70図 空掘(南から)